

成果と課題及び指導改善のポイント

中学校国語（中学1年生、中学2年生）

中学1年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- | | |
|------------------------------------|------|
| ◇ 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える | 設問3二 |
| ◇ 接続する語句の役割について理解する | 設問5二 |
| ◆ 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする | 設問2一 |
| ◆ 登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える | 設問4三 |

中学2年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- | | |
|------------------------------------|----------|
| ◇ 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付く | 設問1二4 |
| ◇ 説明や具体例を加えて、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する | 設問2二1 |
| ◆ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える | 設問2二3、二5 |
| ◆ 登場人物の言動の意味について考え、内容を解釈する | 設問4三 |

中学校国語の課題に対応した指導改善のポイント（☑していきましょう。）

- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理して伝えたいことを明確にしたり、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて文章を整えたりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
 - 書く目的や意図に応じて、集めた材料を取捨選択したり、関連を考えて分類したりし、材料のまとまりごとに見出しを付けたり、新たな材料がどの項目に含まれるかを検討したりする学習活動を設定している。
 - 生徒の実態に応じて、表記や語句の用法、叙述の仕方、考えの根拠の適切さなど、推敲の観点を示して見直しをさせ、読み手の立場に立って自分自身の文章を見直す習慣が身に付くようにしている。
 - 「伝えたい内容にふさわしい材料や語句を選んでいるか」、「文や段落相互の関係は適切か」など、観点を明確にして交流し、その中で出た意見や助言を基にしてよりよい文章に直す学習活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,489	57.2	3.9	58.0	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	5	63.5	3.9	64.0	▼		
	話すこと・聞くこと	5	59.7	1.4	60.0	▼		
	書くこと	5	55.5	4.4	58.0	▼		
	読むこと	5	50.2	6.1	50.0			
評価の観点	知識・技能	5	63.5	3.9	64.0	▼		
	思考・判断・表現	15	55.1	3.9	56.0	▼		
問題形式	選択式	12	63.4	1.3	61.7			
	短答式	3	54.6	5.4	60.0	▼		
	記述式	5	44.0	9.3	48.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点	問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		選択式	短答式	記述式	県	県				
1	一	話題や展開を捉えながら話し合う	○			○					62.7	0.2	70	○	
1	二	目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決める	○			○					63.5	0.1	60		
1	三	分かりやすく伝わるように表現を工夫する	○			○					75.4	0.3	70		
1	四1	必要に応じて質問しながら話の内容を捉える	○			○					56.5	0.6	60	○	
1	四2	話の中心的な部分と付加的な部分に注意して、話の構成を考える	○			○		○			40.1	5.6	40		
2	一	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする	○			○		○			41.1	3.1	60	○	
2	二1	伝えたい事実が伝わる文章になるように工夫する	○			○		○			65.2	3.7	70	○	
2	二2	表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える	○			○		○			77.9	2.3	70		
2	二3	読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の改善点を見いだす	○			○		○			37.1	5.0	50	○	
2	三	書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考える	○			○		○			56.1	7.6	40		
3	一	必要な情報に着目して要約する		○		○		○			49.7	1.0	50	○	
3	二	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉える		○		○		○			78.9	1.0	50		
3	三	漢字の音読みと訓読みについて理解する	○			○		○			68.7	1.2	70	○	
3	四	事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する		○		○		○			43.4	1.5	60	○	
4	一	文章の表現の効果について、根拠を明確にして考える		○		○		○			57.5	2.1	50		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
4	二	事象や行為を表す語句の意味を理解する	○						○				45.3		1.9	60	○	
4	三	登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える			○			○			○		21.5		24.8	40	○	
5	一	文節の区切りを理解する	○					○					68.9		2.6	70	○	
5	二	接続する語句の役割について理解する	○					○					89.7		2.9	70		
5	三	文脈に即して漢字を正しく書く（音読みの熟語） 「対象」	○					○			○		44.8		10.9	50	○	

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,558	56.5	3.2	55.0	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	4	61.3	0.8	62.5	▼		
	我が国の言語文化に関する事項	1	68.8	1.5	60.0			
	話すこと・聞くこと	5	63.0	1.4	56.0			
	書くこと	5	48.4	1.7	50.0	▼		
	読むこと	5	52.0	8.8	52.0			
評価の観点	知識・技能	5	62.8	0.9	62.0			
	思考・判断・表現	15	54.5	4.0	52.7			
問題形式	選択式	15	59.0	0.7	56.7			
	短答式	1	49.7	1.1	60.0	▼		
	記述式	4	49.2	13.2	47.5			

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点 知識・技能	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと			県	県	県	県		
1	一	必要に応じて質問しながら話の内容を捉える	○				○			80.2	0.1	60		
1	一	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる	○				○			60.3	0.2	60		
1	二	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する	○				○			48.4	0.3	50	○	
1	二	資料を用いて、分かりやすく伝わるように表現を工夫する	○				○			67.8	0.8	60		
1	二	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する	○				○	○		58.4	5.9	50		
1	二	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付く	○				○			88.0	0.4	60		
2	一	伝えたいことが分かりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫する		○			○			54.8	0.4	50		
2	一	事象や行為を表す語句の意味を理解する	○				○			54.3	0.4	60	○	
2	二	説明や具体例を加えて、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する		○			○		○	72.3	6.0	50		
2	二	敬語の働きについて理解する	○				○		○	49.7	1.1	60	○	
2	二	読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える		○			○			38.9	0.6	50	○	
2	二	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加える		○			○			35.2	0.6	40	○	
2	二	読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える		○			○			40.6	0.8	60	○	
3	一	目的に応じて情報を整理しながら適切な情報を得る		○			○			42.3	0.7	50	○	
3	二	主張と例示との関係捉える		○			○			75.7	0.7	60		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		言葉の特徴	言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
3	三	文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する				○			○			○		34.3		17.2	40	○
4	一	単語の類別について理解する	○						○					53.1		1.3	70	○
4	二	文章の表現の効果について考える				○			○		○			76.2		1.5	60	
4	三	登場人物の言動の意味について考え、内容を解釈する				○			○			○		31.7		23.8	50	○
5		行書の書き方を理解する	○						○			○		68.8		1.5	60	

成果と課題及び指導改善のポイント

中学校社会（中学1年生、中学2年生）

中学1年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 資料から、東京から見た4か国の首都までの距離及び方位を読み取ることができる
設問1(2)
- ◇ 資料から、中国で作られている農作物の分布と年降水量の関係を読み取ることができる
設問1(5)
- ◆ キャンベラの気温を示すグラフを選択し、選択した理由を説明することができる
設問1(4)
- ◆ 四大文明が起こった時期が、日本の縄文時代に当たることを、その時代の特徴とともに理解している
設問3(2)

中学2年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 資料を基に、モーダルシフトの取り組みの特徴とねらいを説明することができる
設問2(3)
- ◇ ヨーロッパの国々の海外進出が、当時の日本に与えた影響を理解している
設問4(4)
- ◆ 16世紀にヨーロッパで起こった、ルターらによるキリスト教の大変革が、宗教改革であることを理解している
設問4(1)
- ◆ 資料を基に、豊臣秀吉の政策が室町時代から続いた社会をどのように変えたのか、農民を例に説明することができる
設問5(4)

中学校社会の課題に対応した指導改善のポイント（☑していきましょう。）

■用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識を活用する設問や、資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味や意義、特色などについて比較したり関連付けたりして説明する設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。

□生徒が基礎的・基本的な知識を習得できるように、知識を羅列的に伝えるのではなく追究する課題を設定した上で、共通点や相違点、相互の関連、原因、結果、影響などについて自分なりの言葉でまとめる学習活動を設定している。

□生徒が諸資料を基に社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を様々な視点や立場から考察し、考察した結果を説明できるように、「位置や分布」「場所」「時期や年代」「推移」などの追究の視点や、「比較する」「多面的・多角的に見る」などの方法を明示した上で、ペアやグループで対話する学習活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,293	51.4	5.6	54.5	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	世界と日本の地域構成	4	55.5	2.4	57.5	▼		
	世界の諸地域	6	56.5	5.8	56.7	▼		
	私たちと歴史	1	44.9	6.5	50.0	▼		
	古代までの日本	9	47.0	6.8	52.2	▼		
評価の観点	知識・技能	16	56.6	3.3	59.4	▼		
	思考・判断・表現	4	30.7	14.8	35.0	▼		
問題形式	選択式	10	61.5	0.9	59.0			
	短答式	6	48.4	7.2	60.0	▼		
	記述式	4	30.7	14.8	35.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		世界と日本の地域構成	世界の諸地域	私たちと歴史	古代までの日本			県	県	県	県		
1	(1)	アメリカ合衆国が、北アメリカ州に属していることを理解している	○			○	選択式	59.3	2.9	70	○		
1	(2)	資料から、東京から見た4か国の首都までの距離及び方位を読み取ることができる	○			○	選択式	82.1	0.3	60			
1	(3)	資料から、日本と4か国の首都の時差を読み取ることができる	○			○	選択式	61.4	0.5	50			
1	(4)	キャンベラの気温を示すグラフを選択し、選択した理由を説明することができる	○			○	記述式	19.2	5.8	50	○		
1	(5)	資料から、中国で作られている農作物の分布と年降水量の関係を読み取ることができる	○			○	選択式	72.5	0.7	60			
2	(1)	東南アジアの国々が地域統合の促進のため結成した組織が、ASEANであることを理解している	○			○	選択式	49.2	9.6	60	○		
2	(2)	EUの共通通貨が、ユーロであることを理解している	○			○	選択式	73.1	9.2	70			
2	(3)	ヨーロッパで主に行われている3種類の農業の分布を理解している	○			○	選択式	47.1	1.0	60	○		
2	(4)	資料を基に、EUの工業の特色を説明することができる	○			○	記述式	34.9	13.2	30			
2	(5)	資料から、EU加盟国の加盟時期と一人当たりの国民総所得の関係及びEUの課題を読み取ることができる	○			○	選択式	62.5	1.0	60			
3	(1)	メソポタミア文明で発明された文字が、くさび形文字であることを理解している		○		○	選択式	41.1	13.3	60	○		
3	(2)	四大文明が起こった時期が、日本の縄文時代に当たることを、その時代の特徴とともに理解している		○		○	選択式	23.1	1.5	50	○		
3	(3)	資料を基に、エジプト文明が起こった地域で農業が盛んになった理由を説明することができる		○		○	選択式	31.9	14.4	30			
4	(1)	前方後円墳の分布が、ヤマト王権(大和政権)による地方豪族の支配と関連することを理解している		○		○	選択式	62.8	0.7	60			
4	(2)	資料を基に、白村江の戦いのあとに西日本の各地に山城が築かれた理由を説明することができる		○		○	選択式	36.7	25.7	30			

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		世界と日本の地域構成	世界の諸地域	私たちと歴史	古代までの日本		知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
4	(3)	風土記の特徴を理解している				○							49.7		1.0	60	○	
4	(4)	全国各地に国分寺や国分尼寺が置かれた理由を理解している				○							52.1		1.2	60	○	
5	(1)	飛鳥時代と奈良時代について、それぞれの文化を代表する事物を理解している				○							55.3		1.3	60	○	
5	(2)	世紀の表し方を理解している				○					○		44.9		6.5	50	○	
5	(3)	国風文化が生まれた背景を理解している				○							69.8		1.6	60		

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,579	44.9	8.2	53.5	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	世界の諸地域	3	48.3	7.8	56.7	▼		
	日本の地域的特色と地域区分	4	55.0	3.1	55.0			
	日本の諸地域	2	48.9	10.8	45.0			
	中世の日本	1	72.9	0.5	60.0			
	近世の日本	10	36.3	10.6	53.0	▼		
評価の観点	知識・技能	16	46.9	5.8	58.1	▼		
	思考・判断・表現	4	36.8	17.7	35.0			
問題形式	選択式	12	53.6	0.7	58.3	▼		
	短答式	4	26.7	21.1	57.5	▼		
	記述式	4	36.8	17.7	35.0			

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		世界の諸地域	日本の地域特色と区分	日本の諸地域	中世の日本	近世の日本			県	県				
1	(1)	オーストラリアの先住民が、アボリジニであることを理解している	○				○	○	21.4	22.8	60	○		
1	(2)	資料から、オーストラリアへの移民の出身地の変化を読み取り、移民受け入れの政策を理解している	○				○	○	69.6	0.2	60			
1	(3)	資料から、日本の石炭の生産量や輸入量などを読み取ることができる	○				○	○	53.8	0.3	50			
2	(1)	日本の七地方区分を理解している		○			○	○	47.3	0.2	60	○		
2	(2)	工場の立地条件について、工業製品の特徴や交通網と関連付けて理解している		○			○	○	62.1	0.3	50			
2	(3)	資料を基に、モーダルシフトの取り組みの特徴とねらいを説明することができる		○			○	○	59.8	11.6	40			
3	(1)	川の河口部に見られる土砂が積もってきた地形が、三角州であることを理解している		○			○	○	50.7	0.4	70	○		
3	(2)	瀬戸内地方の気候の特色を理解している			○		○	○	66.7	0.4	60			
3	(3)	資料を基に、倉敷市に石油化学コンビナートが作られた理由を説明することができる			○		○	○	31.1	21.2	30			
4	(1)	16世紀にヨーロッパで起こった、ルターらによるキリスト教の大変革が、宗教改革であることを理解している				○	○	○	27.1	26.0	50	○		
4	(2)	資料を基に、ポルトガルなどのヨーロッパの国々がアジアへの新航路を開拓した目的を説明することができる				○	○	○	32.8	16.8	40	○		
4	(3)	大航海時代に開拓された新航路とその航海者を理解している				○	○	○	52.8	0.6	60	○		
4	(4)	ヨーロッパの国々の海外進出が、当時の日本に与えた影響を理解している			○		○	○	72.9	0.5	60			
5	(1)	名護屋城築城の目的が、朝鮮出兵の拠点とするためであったことを理解している				○	○	○	18.3	15.9	50	○		
5	(2)	豊臣秀吉の政策が、当時の日本文化の形成に与えた影響を理解している				○	○	○	47.0	0.9	60	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		世界の諸地域	特色と区分	日本の諸地域	中世の日本	近世の日本	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	県	国	県	国			
5	(3)					○	○		○			40.2		19.7	70	○		
5	(4)					○	○			○		23.6		21.4	30	○		
6	(1)					○	○		○			39.8		1.3	60	○		
6	(2)					○	○		○			38.2		1.2	60	○		
6	(3)					○	○		○			42.7		1.7	50	○		

成果と課題及び指導改善のポイント

中学校数学（中学1年生、中学2年生）

中学1年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、その大小関係を読み取り、不等式に表すことができる 設問6
- ◇ 関数関係の意味を理解している 設問9(1)
- ◆ 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができる 設問8(1)
- ◆ 事象に即して解釈したことを、変域で表すことができる 設問9(2)

中学2年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 二つの図形がどのような移動によって重なるかを考えることができる 設問4(2)
- ◇ 三角形の合同条件を理解している 設問7(2)
- ◆ 着目する必要がある数量を見だし、連立二元一次方程式をつくることができる 設問2(2)
- ◆ 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解している 設問8(1)

中学校数学の課題に対応した指導改善のポイント（☑してみましょう。）

■具体的な場面で、一元一次方程式や連立二元一次方程式をつくる設問や、変数の変域を表したり、伴って変わる二つの数量の関係が一次関数であるものを捉えたりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。

- 具体的な場面で方程式をつくるために、表や線分図、言葉の式などを基に、特定の数量に着目して数量の関係を整理し、相等関係を見いだす活動を設定している。
- 変数の変域を表すために、具体的な場面に即しながら、表やグラフ、式を用いて、変数がとり得る範囲を考察したり、一次関数であるものを捉えるために、二つの数量の変化や対応を調べ、表や式から関数関係を考察したりするなど、表、式、グラフを相互に関連付けて解決する方法を見いだす活動を設定している。
- 問題解決する方法について理解を深めるために、問題を解決したあと、数量の関係をどのように見いだして方程式をつくったのか、変域や一次関数であるものをどのように捉えたのかを、事象に即して他者に説明するなど、問題解決の過程を振り返る活動を設定している。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,325	55.9	7.9	52.5	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	数と式 関数	14 6	57.9 51.1	7.7 8.3	54.3 48.3			
	知識・技能 思考・判断・表現	14 6	66.4 31.4	4.0 17.0	57.1 41.7		▼	
問題形式	選択式	6	70.5	1.0	56.7			
	短答式	10	56.0	6.8	55.0			
	記述式	4	33.7	21.0	40.0		▼	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と式 関数				県	県	県	県		
1	(1)	正の数と負の数の四則計算をすることができる	○	○	○	76.1	2.0	60			
1	(2)	指数の計算の仕方を理解している	○	○	○	88.4	0.1	70			
1	(3)	二つの負の数の四則計算の結果について理解している	○	○	○	58.9	0.5	60	○		
2		自然数を素数の積で表すことができる	○	○	○	59.9	8.6	60	○		
3		具体的な事象における平均の求め方を、設定した目標値を基準とし、正の数と負の数を用いて説明することができる	○	○	○	42.4	14.1	40			
4	(1)	一次式の加法と減法の計算をすることができる	○	○	○	68.1	4.1	70	○		
4	(2)	数量を文字式で表すことができる	○	○	○	47.9	11.8	50	○		
5	(1)	考察の対象を明確に捉えることができる	○	○	○	74.9	1.8	60			
5	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○	○	○	34.8	15.1	40	○		
6		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、その大小関係を読み取り、不等式に表すことができる	○	○	○	70.0	0.8	50			
7		方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	○	○	○	68.0	0.9	60			
8	(1)	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができる	○	○	○	35.9	10.4	50	○		
8	(2)	求めた解を、問題に即して解釈することができる	○	○	○	22.0	27.9	40	○		
9	(1)	関数関係の意味を理解している	○	○	○	82.1	1.4	50			
9	(2)	事象に即して解釈したことを、変域で表すことができる	○	○	○	17.4	7.8	40	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と式	関数				知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
9	(3)	比例の関係をグラフに表すことができる	○					○					69.5		5.2	60		
9	(4)	反比例の表から、 x と y の関係を式に表すことができる	○					○					46.8		6.1	50	○	
9	(5)	比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解している	○					○					55.4		2.6	50		
10	(1)	比例式を解くことができる	○					○					63.3		10.5	50		
10	(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	○					○					35.7		26.8	40	○	

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,301	39.9	11.9	49.5	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	数と式	6	46.4	10.7	53.3	▼		
	図形	6	43.6	5.9	48.3	▼		
	関数	4	33.7	16.3	45.0	▼		
	データの活用	4	30.4	18.2	50.0	▼		
評価の観点	知識・技能	12	44.1	6.6	55.0	▼		
	思考・判断・表現	8	33.6	19.8	41.3	▼		
問題形式	選択式	8	47.3	2.4	52.5	▼		
	短答式	8	42.6	9.6	55.0	▼		
	記述式	4	19.4	35.5	32.5	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現	問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と式	図形	関数	データの活用		選択式	短答式	記述式	県	県	県	県		
1	(1)	整式の加法と減法の計算をすることができる	○				○			75.2	2.4	70			
1	(2)	等式を目的に応じて変形することができる	○				○			36.0	16.5	50	○		
2	(1)	二元一次方程式の解の意味を理解している	○				○			61.2	0.7	60			
2	(2)	着目する必要がある数量を見だし、連立二元一次方程式をつくることができる	○				○			20.0	6.3	50	○		
3	(1)	事象に即して調べる場面で、予想した事柄が成り立たない理由を考察することができる	○				○			61.7	5.8	60			
3	(2)	事柄が成り立つ理由を説明することができる	○				○	○		24.5	32.2	30	○		
4	(1)	角の二等分線の作図をすることができる	○				○			37.7	15.0	60	○		
4	(2)	二つの図形がどのような移動によって重なるかを考えることができる	○				○			54.9	1.4	40			
5		空間における平面と直線との位置関係(面と辺との位置関係)を理解している	○				○			41.4	1.8	50	○		
6		円錐の展開図における扇形の中心角の大きさの求め方を考え、式をつくることができる	○				○	○		15.8	15.3	30	○		
7	(1)	同位角が等しければ2直線は平行であることを理解している	○				○			46.8	1.3	60	○		
7	(2)	三角形の合同条件を理解している	○				○			65.3	1.0	50			
8	(1)	事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解している	○				○			19.4	1.6	50	○		
8	(2)	一次関数の表から変化の割合を求めることができる	○				○			48.3	12.8	50	○		
9	(1)	グラフから必要な情報を読み取り、具体的な事象を数学的に解釈することができる	○				○			54.1	2.9	50			

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と式	図形	関数	データの活用		知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県	県	県	県		
9	(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○						○			13.2		48.0	30	○
10	(1)	最頻値について理解している			○									26.6		2.8	50	○
10	(2)①	範囲を求めることができる			○						○			20.7		16.0	50	○
10	(2)②	データの特徴を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○						○			24.3		46.2	40	○
11		多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している			○									50.1		7.9	60	○

成果と課題及び指導改善のポイント

中学校理科（中学1年生、中学2年生）

中学1年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ ペンギンが1回に産卵する数やマナティーが1回に出産する子の数が少ない理由を、子の育て方の特徴を基に考え、仮説を立てることができる 設問2(3)
- ◇ ろ過の正しい操作方法を身に付けている 設問3(1)
- ◆ 水の密度と5つのおもりの密度の関係から、水温について分析して解釈することができる 設問4(2)
- ◆ 二酸化炭素の特徴や気体の集め方の特徴を基に、気体の性質に適した実験を検討し、改善することができる 設問6(2)

中学2年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ マグネシウムが酸素と化合するときのモデルを基に、マグネシウムが二酸化炭素中で酸化するときの正しいモデルを選択することができる 設問5(2)
- ◇ ベネジクト液についての知識を身に付けている 設問6(2)
- ◆ 地層の重なり方から、土地に起こった変化を分析し、解釈することができる 設問3(2)
- ◆ 植物の蒸散実験において、実験の妥当性を検討し、改善することができる 設問7(2)


中学校理科の課題に対応した指導改善のポイント（☑してみましょう。）

■ 観察・実験の結果を分析して解釈する設問や、実験の妥当性について検討して改善する設問に課題が見られました。この課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。

□ 観察・実験の結果を分析して解釈する場面では、観察・実験の結果と予想を比較したり、観察・実験の結果を今までに習得した知識・技能と関連付けたりして、観察・実験の結果を考察する活動を設定している。

□ 実験の妥当性について検討する場面では、自分や他者が説明した内容をより妥当なものにするために、予想と観察・実験の結果が一致しているかどうかや、課題に正対した考察ができているかどうかという視点を明示し、グループや学級全体での話し合いを通して、その実験について検討し、改善する活動を設定している。

□ 立案した計画について検討する場面では、今までに習得した知識・技能を基に、実験の結果に影響すると思われる要因を挙げて、具体的な条件を検討する活動を設定している。

 正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,498	52.6	5.6	57.9	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	身の回りの物質	11	52.2	6.3	58.2	▼		
	いろいろな生物とその共通点	8	53.1	4.5	57.5	▼		
評価の観点	知識・技能	12	60.3	5.3	64.2	▼		
	思考・判断・表現	7	39.4	6.0	47.1	▼		
問題形式	選択式	8	60.9	0.7	60.0			
	短答式	7	53.6	8.7	58.6	▼		
	記述式	4	34.3	9.8	52.5	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		身の回りの物質	生物分野				県	県				
1	(1)	種子植物についての知識を身に付けている	○		○	○	62.0	0.3	70	○		
1	(2)	被子植物についての知識を身に付けている	○		○	○	44.0	7.7	60	○		
1	(3)	双眼実体顕微鏡の正しい操作方法を身に付けている	○		○	○	31.3	0.3	50	○		
1	(4)	マツバボタンが双子葉類であると判断するために観察する部位とその特徴を見いだすことができる	○		○	○	45.4	12.3	50	○		
2	(1)	鳥類の体の表面の様子や卵の特徴についての知識を身に付けている	○		○	○	92.0	0.3	70			
2	(2)	脊椎動物についての知識を活用し、分類することができる	○		○	○	42.1	0.4	60	○		
2	(3)	ペンギンが1回に産卵する数やマナティーが1回に出産する子の数が少ない理由を、子の育て方の特徴を基に考え、仮説を立てることができる	○		○	○	59.6	7.6	50			
2	(4)	両生類であるカエルの特徴や成長に応じて飼育環境を整えた理由を説明することができる	○		○	○	48.5	7.4	50	○		
3	(1)	ろ過の正しい操作方法を身に付けている	○		○	○	91.5	0.6	70			
3	(2)	水と砂糖の質量を基に、質量パーセント濃度を求める方法を身に付けている	○		○	○	47.9	5.8	60	○		
3	(3)	有機物を取り除く実験を基に、実験の計画を検討し、改善することができる	○		○	○	35.1	1.1	40	○		
4	(1)	物質の温度が上がると、物質の体積は大きくなり、密度は小さくなるという知識を身に付けている	○		○	○	23.7	18.9	50	○		
4	(2)	水の密度と5つのおもりの密度の関係から、水温について分析して解釈することができる	○		○	○	11.8	6.6	40	○		
5	(1)	状態変化についての知識を身に付けている	○		○	○	82.5	7.1	70			
5	(2)	ガスパーナーの正しい操作方法を身に付けている	○		○	○	79.0	1.1	70			

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		身の回りの物質	生物分野			知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
5	(3)	融点についての知識を身に付けている	○							○			50.5		14.2	70	○
5	(4)	水が水に変化する時の温度変化について、実験の結果と状態変化を結び付けて分析し、解釈することができる	○							○			54.1		1.6	50	
6	(1)	二酸化炭素に石灰水を加えた時の変化についての知識を身に付けている	○							○			77.5		7.0	70	
6	(2)	二酸化炭素の特徴や気体の集め方の特徴を基に、気体の性質に適した実験を検討し、改善することができる	○								○		21.1		5.4	50	○

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,563	40.5	5.3	56.0	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の内容・領域等	身近な物理現象	5	35.2	3.7	54.0	▼		
	化学変化と原子・分子	5	48.1	6.7	60.0	▼		
	生物の体のつくりと働き	6	50.0	4.6	58.3	▼		
	大地の成り立ちと変化	4	23.5	6.9	50.0	▼		
評価の観点	知識・技能	11	46.5	7.2	63.6	▼		
	思考・判断・表現	9	33.2	3.0	46.7	▼		
問題形式	選択式	9	42.9	1.0	53.3	▼		
	短答式	9	41.9	9.3	61.1	▼		
	記述式	2	23.6	7.2	45.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		身近な物理現象	化学変化と原子・分子	生物の体のつくりと働き	大地の成り立ちと変化			県	県	県	県		
1	(1)	全反射についての知識を身に付けている	○			○	○	29.0	3.7	70	○		
1	(2)	光の屈折の知識を活用して、水中にあるものの位置を判断することができる	○			○	○	38.5	0.3	60	○		
2	(1)	ばねに加える力の大きさとばねの伸びとの関係を正しくグラフに表す方法を身に付けている	○			○	○	52.5	7.6	50			
2	(2)	重力とつり合っている力の作用点の位置についての知識を身に付けている	○			○	○	29.4	0.5	50	○		
2	(3)	フックの法則を活用して、身の回りにある物体の質量を求めることができる	○			○	○	26.6	6.0	40	○		
3	(1)	地層が堆積した当時の環境を知る手掛かりとなる化石が示相化石であるという知識を身に付けている		○		○	○	30.4	18.1	70	○		
3	(2)	地層の重なり方から、土地に起こった変化を分析し、解釈することができる		○		○	○	30.1	0.5	50	○		
3	(3)	柱状図と等高線を基に、地層が傾いている方位を分析し、解釈することができる		○		○	○	15.3	1.5	30	○		
3	(4)	火山灰の色からマグマの性質を分析して、火山の形を推測することができる		○		○	○	18.2	7.7	50	○		
4	(1)	水に水酸化ナトリウムを溶かすことにより、小さな電圧で分解できるという知識を身に付けている	○			○	○	55.0	11.8	70	○		
4	(2)	水の電気分解によって陽極に酸素が発生することと、酸素の確認方法についての知識を身に付けている	○			○	○	41.0	3.7	60	○		
4	(3)	電気分解装置に集まる気体の量について、実験の結果を予想することができる	○			○	○	38.9	1.2	50	○		
5	(1)	燃焼についての知識を身に付けている	○			○	○	45.5	15.2	70	○		
5	(2)	マグネシウムが酸素と化合するときのモデルを基に、マグネシウムが二酸化炭素中で酸化するときの正しいモデルを選択することができる	○			○	○	60.0	1.5	50			
6	(1)	液体を加熱するときの正しい操作方法を身に付けている	○			○	○	46.0	0.9	70	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		身近な物理現象	化学変化と原子・分子	生物の体のつくりと働き	大地の成り立ちと変化	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	県	県	県	県			
6	(2)	ペネジクト液についての知識を身に付けている	○							○			85.5		0.9	70	
6	(3)	デンプンの有無を判断するために必要な知識を身に付けている	○								○		53.1		12.7	60	○
6	(4)	温度の変化による消化酵素の働きの違いについて分析し、解釈することができる	○							○			42.4		1.8	50	○
7	(1)	道管についての知識を身に付けている	○								○		43.8		4.4	60	○
7	(2)	植物の蒸散実験において、実験の妥当性を検討し、改善することができる	○								○		29.1		6.7	40	○

成果と課題及び指導改善のポイント

中学校英語（中学１年生、中学２年生）

中学１年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る 設問8
- ◇ 日常的な話題について、まとまりのある文章（対話文）の概要を捉える 設問9
- ◆ 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、短い文章の要点を捉える 設問10
- ◆ 一般動詞の３人称単数現在時制の疑問文を正確に書く 設問12(1)

中学２年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 日常的な話題について、その内容を正確に聞き取る 設問1(1)、(2)
- ◇ 日常的な話題について、まとまりのある文章（対話文）の概要を捉える 設問8
- ◆ 聞いて把握した内容について、適切に応じる 設問5
- ◆ 疑問詞を含む疑問文を正確に書く 設問12(2)

中学校英語の課題に対応した指導改善のポイント（☑してきましょう。）

- 聞いたり読んだりして把握した内容に対して自分の考えを示すことができるように、まとまりのある文章の要点を捉える設問に課題が見られました。この課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
 - まとまりのある文章を聞いて、要点を捉えさせる際には、聞き取りのポイントを示すなどして、話し手がどのような人で、何を求めているか、この場面においてどのような応答が適切なのかななどを意識しながら聞き取らせる活動を設定している。
 - まとまりのある文章を読んで、要点を捉えさせる際には、読む前に、テキストにある絵や図を基に生徒とやり取りをしながら筆者の伝えたいことを予想させたり、So や Therefore など結論等を表す語句に注目して読ませたりする活動を設定している。
 - 捉えた要点に対して自分の考えを書く際には、表現した英語の誤りを生徒自身で修正する力を身に付けるために、文法事項等のチェックリストを活用して誤りに自分で気付かせたり、ペアやグループで修正し合ったりする活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,491	55.3	6.3	56.0	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	聞くこと	7	61.3	4.3	62.9	▼		
	読むこと	5	61.0	6.9	54.0			
	書くこと	8	46.4	7.8	51.3	▼		
評価の観点	知識・技能	13	54.3	4.2	58.5	▼		
	思考・判断・表現	7	57.0	10.4	51.4			
問題形式	選択式	12	69.5	0.5	62.5			
	短答式							
	記述式	8	33.8	15.0	46.3	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等			評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		聞くこと	読むこと	書くこと			県	県				
1	(1) 日常的な話題について、その内容を正確に聞き取る	○			○		43.4	0.3	70	○		
1	(2) 日常的な話題について、その内容を正確に聞き取る	○			○		85.2	0.2	70			
2	(1) 対話を聞いて、適切な応答を相手に返す	○			○		62.8	0.4	70	○		
2	(2) 対話を聞いて、適切な応答を相手に返す	○			○		52.6	0.5	60	○		
3	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取る	○			○		72.6	0.4	60			
4	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を捉える	○			○		87.5	0.3	70			
5	聞いて把握した内容について、適切に応じる	○				○	24.6	27.6	40	○		
6	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取る	○			○		77.6	0.4	70			
7	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る	○			○		54.2	0.9	50			
8	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る	○			○		78.7	0.6	50			
9	日常的な話題について、まとまりのある文章(対話文)の概要を捉える	○			○		79.9	0.9	60			
10	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、短い文章の要点を捉える	○				○	14.6	31.5	40	○		
11	(1) 文の中で適切にbe動詞を用いる		○		○		71.5	0.8	60			
11	(2) 文の中で適切に代名詞(目的格)を用いる		○		○		68.3	0.8	60			
12	(1) 一般動詞の3人称単数現在時制の疑問文を正確に書く		○		○		14.2	13.9	50	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		聞く	読む	書く			知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
12	(2)	疑問詞を含む疑問文を正確に書く		○				○			○		58.9		13.6	50		
13	(1)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く		○				○			○		46.7		7.2	50	○	
13	(2)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く		○				○			○		38.7		6.8	50	○	
13	(3)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の否定文を正確に書く		○				○			○		32.0		8.1	50	○	
14		与えられたテーマについて自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く		○				○			○		41.1		11.2	40		

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,570	55.0	7.5	53.0	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	聞くこと	7	66.7	4.2	61.4			
	読むこと	5	54.3	6.6	46.0			
	書くこと	8	45.3	10.8	50.0	▼		
評価の観点	知識・技能	13	56.9	5.3	56.2			
	思考・判断・表現	7	51.5	11.5	47.1			
問題形式	選択式	12	69.8	0.5	58.3			
	短答式							
	記述式	8	32.9	17.9	45.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等			評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		聞くこと	読むこと	書くこと			県	県				
1	(1) 日常的な話題について、その内容を正確に聞き取る	○			○	○	90.8	0.1	70			
1	(2) 日常的な話題について、その内容を正確に聞き取る	○			○	○	94.7	0.1	70			
2	(1) 対話を聞いて、適切な応答を相手に返す	○			○	○	60.0	0.3	60			
2	(2) 対話を聞いて、適切な応答を相手に返す	○			○	○	35.3	0.3	60	○		
3	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取る	○			○	○	80.9	0.3	60			
4	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を捉える	○			○	○	86.2	0.3	70			
5	聞いて把握した内容について、適切に応じる	○			○	○	19.0	27.8	40	○		
6	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る	○			○	○	73.5	0.4	50			
7	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る	○			○	○	52.1	0.4	50			
8	日常的な話題について、まとまりのある文章（対話文）の概要を捉える	○			○	○	68.3	0.6	40			
9	社会的な話題について、まとまりのある文章（説明文）の要点を捉える	○			○	○	48.8	1.3	50	○		
10	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などの要点を捉える	○			○	○	28.8	30.6	40	○		
11	(1) 文の中で適切に接続詞を用いる		○		○	○	73.6	0.7	60			
11	(2) 文の中で適切に第4文型（SVOO）を用いる		○		○	○	73.7	0.7	60			
12	(1) 助動詞を含む疑問文を正確に書く		○		○	○	37.0	15.5	50	○		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		聞く	読む	書く			知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	県		県			
12	(2)	疑問詞を含む疑問文を正確に書く		○				○			○		15.1		21.2		40	○
13	(1)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く		○				○			○		63.2		10.0		60	
13	(2)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く		○				○			○		34.3		8.8		50	○
13	(3)	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の否定文を正確に書く		○				○			○		36.8		10.1		50	○
14		与えられたテーマについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く		○				○			○		28.6		19.3		30	○